

## フェアプレーの推進

バスケットボールを通じ、スキルアップだけを目指すのではなく、主体的に楽しみながら継続的に活動することで、人間力や協調性、リスペクトの精神といった社会性を養うことができると考えます。しかし、一方で残念なことにバスケットボールをはじめ、スポーツ活動においては現在も体罰、暴力・暴言、ハラスメント行為が散見されます。このことから健全なバスケットボール環境の整備が重要な課題となっています。

### 1. インテグリティの導入

JBAは、インテグリティの精神（誠実さ・真摯さ・高潔さ）に基づき、人間力・指導力・組織力を高め、バスケットボールの価値を高めるための指針決定および啓発活動に取り組んでいます。2019年より、新たなメッセージとして「**クリーン・バスケットボール、クリーン・ザ・ゲーム**」を発信し、**暴力・暴言をはじめ、すべてのハラスメントのないバスケットボール界を目指す取り組みを始動**しました。クリーン・バスケットボールとは、バスケットボールファミリー全員の協力によりバスケットボールの価値を高めるための「オフコートでのあり方」、クリーン・ザ・ゲームとは、ゲームに関わるプレイヤー、コーチ、審判すべての協力でゲームの価値を高めるための「オンコートでのあり方」を示しています。



### 2. ユニセフ「子どもの権利とスポーツの原則」への賛同

「子どもの権利とスポーツの原則」は、すべての子どもの成長と発達を助ける機会としてのスポーツの中で、子どもたちが暴力暴言やハラスメントなどを受けないように、子どもとスポーツに関わるすべての人が協力し取り組んでいくための行動指針として作成されました。JBAはこの取り組みに賛同し、子どもたちが生き生きとバスケットボールを楽しめる環境づくりを目指します。

### 3. 子どもたちの主体性を伸ばすコーチングを目指して

日本におけるミニバスケットボールのコーチングは指示命令が多く、一方通行のコミュニケーションになりがちです。怒ってプレイヤーを委縮させ、考える余裕を与えない場面も見受けられます。このようなことが継続すると、子どもたちは主体性を奪われ、コーチの指示を待つようになると考えます。子どもたち自身が判断してプレーを楽しむためには、自ら考える力を育てるべきです。そのためには、コーチの言動や態度を変えなくてはなりません。

#### 4. 調和的情熱（ハーモニアス・パッション）で子どもたちと接しよう

アスリート・センタード・コーチングとは、アスリートを中心に置いたコーチングであり、コーチは情熱を持って子どもと接することが求められます。ただし、コーチ自身の名声などを得るための執着的情熱（オブセッシブ・パッション）では、プレイヤーの存在を無視した一方的なコーチングにつながります。アスリート・センタード・コーチングに求められる情熱は、プレイヤーとコーチがお互いにしっかりとコミュニケーションを取り、尊重、信頼し合うことです。さらなる向上を目指して、共に努力する調和的情熱（ハーモニアス・パッション）で、子どもたちと接することが重要です。

### U12カテゴリー「指導行動の指針」

JBA U12カテゴリー部会

U12カテゴリーから「暴言・暴力」を根絶し、子どもたちが「楽しく」プレーできる環境をつくるため、指導者の皆さんには「指導行動の指針」として、つぎのことを意識して、指導に当たっていただきたいと思います。

#### <やってほしいこと>

- ・ はげます
- ・ 元気づける
- ・ 委ねる
- ・ 引きだす・導く
- ・ 判断させる
- ・ 主体性を育てる





#### <やってほしくないこと>

- ・ 怒る
- ・ 怒鳴りつける
- ・ 指示ばかりする
- ・ 威圧する
- ・ 判断させない
- ・ 支配する

みなさんの指導は  
どうですか？

## 1 育成世代の目的

---

- ① 子どもたちとそれに関わる全ての人がバスケットボールを通じて元気になる。
- ② 子どもたちがバスケットボールを楽しめ、そして成長できる環境をつくる。
- ③ バスケットボールを通じて、子どもたちの発育発達に応じた人格形成に寄与する。

## 2 育成世代の基本方針（関わる全ての大人たちが行うこと）

---

- ① 安心安全なバスケットボール環境を実現すること。
- ② バスケットボールを子どもたちがのびのびと取り組める環境をつくること。
- ③ 子どもたちが試行錯誤しながら、様々な楽しみを知ることができるようにサポートすること。

## 3 育成世代の目標

---

- ① 大人たちは、健全なバスケットボール環境の在り方について、継続的に話し合う機会を設け、安心安全な暴言暴力のないバスケットボール環境の実現を目指します。
- ② 子どもに関わる全ての大人は育成マインド（後述）を大切にし、行動します。
- ③ 子どもたちのニーズ（競技志向・レクリエーション志向や発達段階など）に合致し、楽しめるプレー環境（リーグ戦方式、プレータイム確保、3×3の活用）を構築します。

## 4 「楽しさ」を大切にしよう

---

「楽しい」からやりたくなるのがスポーツの良さです。試合に勝った嬉しさだけでなく、上手になったと褒められた時、仲間と一緒にプレーしている時、シュートが入った時、ナイスパスが通った時、試合に出られた時など、子どもによって「楽しさ」の感じ方は様々です。試合の勝利だけが子どもにとって唯一の「楽しさ」ではないことを知り、子ども一人一人の「楽しさ」を認め、見守りましょう。

## 5 「勝利」の捉え方を考えよう

---

育成世代では、得点で上回ることだけが「勝利」ではないことを知りましょう。

将来に向けて成長を施される育成年代において、僅かな技術を習得することができた自信の積み重ねや試合に負けたことから立ち直る過程を経験することなどが、その後の人生における大きな「勝利」かもしれません。

## 6 プレイヤー主体で考えてみよう

---

子どもが上手くできないことに対して、大人はできるように手を差し延べたくなります。どこまでサポートしてあげることが、子どもから「楽しさ」を奪わないのでしょうか？ 子どもたちがバスケットボールに取り組んでいる時、自ら考え、主体的に取り組む、「楽しさ」を見出す過程が彼らの成長を促します。子どもたちの主体的な活動を大切にしましょう。

## 7 バスケットボールを通じて、ライフスキルを学ぼう

---

スポーツは、人生を教えてくれると言われています。楽しさだけでなく、うまくいかない挫折も経験できます。また、仲間との人間関係から生まれる絆、チームルールを守ることで身につく規範意識など、人間力を高める様々な経験をすることができます。バスケットボールを通じて社会人になった時に役立つことを多く教えてくれます。

